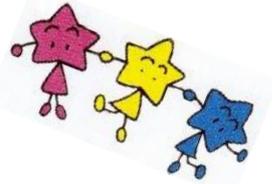


あのね、保育の根 NO.10

～えんちょうのおたより～ 1月



気がつけば私のおたよりも今年度は4回目。園長就任1年目の年間最多記録に並びました！

いや～、私みたいな怠け者は当番とか、締め切りがないとここまでできないので、3人で順番に執筆するのは良いアイデアだったと自画自賛です。(笑)

そして前回のみほ先生の「頑張り」についても良い話でしたね～。「頑張らせることよりも頑張りたいたいと思える関係性を築くこと」…頑張り屋のみほ先生の話だからこそ私には特に響きました！優秀な後輩に恵まれて私は気楽に仕事を…ではなく！！(笑)
私の得意な分野に振り切って仕事ができるという幸せをかみしめています。先生達いつもありがとう！

さてさて、「苦手なことは頑張らない」がモットーの私。今回は得意分野の発達障害について、少しだけ切り込んでいきたいと思います。最近は日常的な会話の中でも「発達障害」を耳にすることが多くなってきましたので、そろそろ少しだけ。

「もしかして我が子も発達障害!？」と、悩んでいる保護者の方々のほんの少しだけでも力になれば幸いです。

* 発達の凸凹と発達障害

NO.4のおたよりで、誰しも発達は凸凹しているという話をしました。そして現時点で発達障害の診断は、発達の凸凹の影響により、本人や保護者、周りの人が日常生活に困難をどの程度感じているかがポイントとなるようです。

誰もが持っているであろう発達の凸凹。極端な話、本人や保護者、周りの人が日常生活で困難さを感じていなければ、発達の凸凹が顕著でも発達障害とは診断されず、凸凹が顕著でなくても本人等が困難さを強く感じていれば、診断される場合がある。という、まだまだ曖昧な障害ということです。

* 発達障害とは？

何度も「現時点で」と書きましたが、発達障害は、「脳の影響による障害」という所までは解明されましたが、まだまだわからないことが多いのも特徴です。

そして、自閉スペクトラム症 (ASD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD) の3つに分類されていますが、これも後々かわる可能性もあります。

各分類の詳細を記述すると大変な文字数になるため割愛しますが、機会があればまたおたよりで記載いたします。詳しく知りたい方は事務所にお声掛けください！

* 発達障害は育て方の問題？

近年の研究の成果により、発達障害は生物学的要因、つまり生まれながらにして持っている特性があり、それが遺伝しやすいことも明らかになっています。かつては親の育て方等の環境要因を問題視する時代もありましたが、『保護者の育て方や愛情不足が原因ではない!』ということを理解していただきたい！

育て方や愛情不足等に問題があるという間違っただけの社会の認識により、いったいどれほどの保護者が悩んでいる(悩んでいる)ことか…。想像するだけで私は辛い。

* 発達障害は「あたり前」を求める社会が生んだ障害ではないかな…

私のように特別支援教育を仕事の一部とする者や研究者にとっては、発達障害の特性を細かく分析することがより良い支援につながるため重要であると感じます。

ただ、結局のところ現時点で『本人や保護者、周りの人が日常生活に困難をどの程度感じているかがポイント』ということは、社会が発達の凸凹に対して理解を深め、受容できるようになれば発達障害は「障害」ではなくなるという解釈もできます。

アインシュタインやビルゲイツ、トムクルーズなど、世界的にも有名で数々の功績を残してきた方々も発達障害である(だった)と言われていることからわかる通り、発達の凸凹は伸ばし次第で他の人には計り知れない領域を開花する可能性を秘めています。

社会の「あたり前」は、私たちが解明できない問題の解決や、新しい概念を発見する可能性を阻害していないだろうか…。

一人ひとりの「あたり前」の考え方や見方を少し変えるだけで、誰もが生きやすい社会になると私は思います。そして、誰もが生きやすい社会を実現できるように努力する教育者でありたい…。